

累卵

瀧を二人の老人が見上げてみた
「すべての関係は累卵の如きもの」
「心すべきことだ」
それぞれの心の中にそのあやふさを描いた

途中に突出した岩石に水流が激突し
一部水膜をつくりおびただししぶきとなつた
「油じみた小さい虹が出来てゐる」
「どこに」
「不思議にも見失つた」
「いや 僕には見えはじめた」
時間の推移と位置の相違の上で
多彩な半円はそれぞれの心の中に現出した

山の高さにさへぎられて光の量がすくなくなると
瀧の色は鉛色に変化した
音さへがにぶい重いものになつた
それぞれ見交す二人の老人
互の眼中に
己のいのちのいろどりを見出して言葉もなかつた